

令和4年度 第3回 伊勢市障害者施策推進協議会（自立支援部会） 結果概要

開催日時	令和4年10月5日（水曜）13時30分～14時45分
開催場所	伊勢市役所東館4-2来客室（Web会議）
出席委員	嶋垣 智之 部会長、青木 哲也 委員、浦田 宗昭 委員、大田 桃子 委員、 奥村 比呂美 委員、竹澤 尚美 委員、富田 真実子 委員、 中村 和人 委員、山本 美穂 委員、峯山 しいな 委員、山本 明伸 委員
事務局	高齢・障がい福祉課長・障がい福祉係長 福祉生活相談センター職員1名、 障がい者地域相談支援センター長3名
傍聴者	3名

1 報告事項

（1）各プロジェクトチームの取組状況報告

人材確保・養成チーム、就労支援チーム、医療的ケア児者支援チーム、それぞれの進捗状況を報告。

（委員からの意見等）

- ・各チームの取組状況の報告は資料を提出いただきたい。
- ・就労支援チームが検討中のパンフレットの作成について、作成経過の中でパンフレットに登場する関係機関と協議を行いながら作成いただきたい。
→そのあたりも含めて検討したい。

（2）伊勢市虐待対応マニュアル、地域相談支援体制評価シートの確認

事務局より、前回の部会で提案のあった資料を報告。

（委員からの意見等）

【虐待対応マニュアルについて】

- ・国の手順と伊勢市の対応手順に相違がある。養護者虐待のフローで「虐待対応ケース会議」と「モニタリング・評価」の間に、国のマニュアルでは「成年後見制度利用開始の審判請求」、「養護者への支援」、「障害者への支援」、「障害者の保護」という行政が行う部分などが明記されているが、伊勢市のマニュアルにはそれがない。障害福祉施設従事者虐待の対応手順に関しても同様のことが言える。意図的に抜いているその意図を教えてください。
→構成上、記載を省略したものであるが、委員のご指摘のとおり行政が対応する部分も記載するよう改善したいと考えている。
- ・地域が虐待対応に行政とともに取り組む信頼感がないという危機感に基づいてこの検討をしている。そんな中で、行政がすることの記載を省略したという説明は、理解ができない。
- ・この件と地域相談支援体制評価シートに関して、今回、委員でこの現状を共有し、次回の自立支援部会で協議をしたいと考えている。

→出席委員の同意が得られたため、次回の協議事項としたい。

2 協議事項

(1) 地域生活支援拠点等事業モデルケースの提案

【提案要旨】

- ・10月からモデルケースを2例運用し、自立支援部会から山本明伸委員を代表者として選出した上で、モデルケースを運用中での課題整理及び自立支援部会への課題報告を行い、自立支援部会として課題解決への提案を協議していく。

(2) サービス事業所等連携会議の再開の提案

【提案要旨】

- ・スケジュール案のとおり全体会議、事業所種別の会議を今年度中に開催する。
- ・全体会議は地域生活支援拠点について1月開催予定。事業所種別の会議は10月～11月開催予定。
- ・内容等の詳細については、運営会議で詰めていく。

(委員からの意見等)

- ・就労系グループでは、これまで事業所を超えた仕事の振り分けなどのテーマが出ていたり、現在は、新型コロナウイルス感染症の課題が出ていたりするため、今一番困っていることについてなど幅広く話し合う必要があるのではないかと。

(3) ビジネスパーク伊勢の講師について

【提案要旨】

- ・令和4年度講師案のとおり講師を派遣する。

(委員からの意見等)

- ・学校も参加児童も意欲的な雰囲気に参加してくれており、良い時間となっている。
- ・参加する委員が不安を感じることなくスムーズに授業ができるように、事務局で調整をしてもらいたい。
- ・いつまでに打ち合わせがあるとか段取りの日程が分かるとありがたい。
- ・福祉人材センターの福祉の仕事に関するリーフレットを授業で配布させてもらっており、今後も毎回配布し、生徒のみならず保護者にも届くように声をかけていく。
- ・話を受けた以上、責任を持って講座をしたいと思っている。委員から市役所に問い合わせるのではなく、特に初めて講座を担当する委員に対して負担がかからないように事務局が配慮してほしい。

(4) 新プロジェクトチームの検討について

【提案要旨】

- ・令和4年度中に地域課題を抽出、整理し、新プロジェクトチームの必要性やそ

の内容について検討する。

- ・自立支援部会で新チームの検討をするために、運営会議で課題の整理をしていきたい。

(委員からの意見等)

- ・障害者計画、障害福祉計画・障害児福祉計画の目標とリンクしたチームを検討すると良いのではないか。
- ・スケジュールは、12月に新チームの決定、2月に新チームの取組内容を協議することを確認したい。
- ・児童分野の連携が課題。児童通所の希望をしても中々利用ができない。児童発達支援センターとの連携などの話がある。
- ・学校現場では、就労アセスメントが受けにくかったり、不登校の子の卒後の進路などの課題が増えてきている。
- ・障害福祉を市民にとってより身近に感じられる方策を考えるのはどうか。
- ・ひきこもりの問題は大きい。「三重県ひきこもり支援推進計画」も動き出している状況にある。
- ・関係機関との連携に課題を感じる。

(5) 人材確保・養成チームのチーム長について

【提案要旨】

- ・人材確保・養成チームのチーム長が12月から休職につき、代理案のとおり、チーム長代理を立てたい。

以上、(1)～(5)の提案等について承認された。

3 その他

事務局より、資料に基づき以下の取り組み等について説明。

(1) コロナ禍の対応における課題

(委員からの意見等)

→相談支援ネットワークグループで相談員が集まり現状の共有を行った。何か解決策が出された訳ではないが、危機感だけでも委員で共有したい。事業所が休止となり、今まで受けていたサービスが利用できなくなることが長期間続くと、家族負担が増大するケースや、相談支援専門員が防護服を着て感染の有無の検査への運転をするしかないケースなど多くの困難な事態を抱えながら日々奮闘している現状がある。他市の解決策等を参考にしながら、何か提案できることはないかと考えている。

(2) 障害者雇用率の除外率制度に関する対応の現状共有

(3) 10月23日開催 みんなの公園ピクニック音楽会の案内